

## 編 集 後 記

この冬は例年になく寒い日が多く、春が待ち遠しく思ったが、ソメイヨシノの満開も近い。聖泉看護学研究第2巻もこの季節に間に合うように刊行の運びとなり、編集委員一同肩の荷を降ろし、喜びに浸っている。昨年の10月末で原稿を締め切ったが、昨年度第1巻に比べ倍ほどと多くの投稿があった。それらの原稿を精査した上で、学内、および学外の専門の先生方に査読をお願いした。昨年と同様に先生方からはきめ細かい査読をいただき、年が明けて著者による訂正、加筆などを行い、多くの原稿では再査読をお願いした。査読の先生方には心よりお礼を申し上げます。

編集を進める過程で、著者のみなさんには編集委員会からも多くの訂正、加筆などをお願いし、また原著、研究ノート、資料などの区分の点で意に沿えなかった点多々ありました。これは学内刊行とはいえ、外部査読をお願いしている学術雑誌としての水準を保ち、看護学部 of 先生方の研究と論文発表への研究力、また論文作成の技術力の向上を目指す本学部の方針に沿ったものであることに対するご理解と編集委員会へのご寛容を賜れば幸いです。

本学部は開設して3年目、この4月には第3期の新入生を迎える若い学部ですが、平成27年度には大学院看護学研究科の開設を目指しております。教員の皆様方には研究により一層のご尽力をお願いすることになります。同時に、この聖泉看護学研究を大いにご活用、またお育ていただきますよう切にお願いする次第です。

最後になりましたが、創刊号とこの第2巻のお世話を頂きました上野範子、井上美代江、桶河華代の3先生は2年の任期を終えられることになりました。ここにご貢献を感謝いたします。

委員長 石 田 英 實